

「のぶしなカンパニー」のプレオープンから1年、「食堂かたつむり」の営業スタートから半年。米作り、薪割り、キノコ・山菜採り、ジビエ肉解体、リノベーション……と、文明に浸りきった軟弱なカンパニー乗組員にとってはダッシュ村のような学び舎となった2017ののぶしな体験。何が飛び出してくるかわからないごった煮鍋のように、成年2018もワクワク感満載なのであ～る！！ワオ～ン！？

のぶしなカンパニー奮闘記 パート7
お味見いかが？
ごった煮カンパニー
2017を振り返る！

文・鶴林克彦 写真・牧周平



祖室溪谷入口に立ちはだかった通行止めの看板……。12月に解除され、現在は通行できます！



我がイチローさんシリーズ3連発。薪割り、薪ストーブのメンテ他いろいろと今年はお世話になりました。口は悪いけど心は優しいイチローさんなのだ～

続・かたつむり劇場

のびりムードが漂う店名にしては、慌ただしく日々が過ぎていく「食堂かたつむり」。この夏相次いで地元テレビや新聞、雑誌に取り上げてもらったおかげもあって、10月、11月になっても、ありがたいことに足を運んでくれるお客さんは後を絶たなかった。

9月に信級の玄関口「祖室溪谷」が落石で通行止めになった時も、新聞から峠を越えてくるルートを通って、毎回新しい友だちを引き連れて来てくれるリピーターの方、視察の方、中には「ホームペー

ジを見ました！」と県外からやってきた方という風に、通行止めの影響もさほど感じさせないほど、こちらの予想を上回る盛況を呈したのであった。

そんな村の外からのお客さんたちを迎えてくれるのは、村のご常連の方たち。いつもオープンかつフレンドリー。フレンドリーどころか他の追従を許さない、キャラ立ちまくりの役者が揃っている。

薪ストーブ大臣のイチローさん、物知り大家の吉沢さん、焼酎大好き♡よこめのおじさん、何でもできる超絶シニアマンこと羽田さん、そして、スーパー助手人石坂アニキ……といった私たちのことをいつも気にかけてくれる先輩たちとお客さんの交流が、にわかに始まる食堂かたつむりは、ちょっとした「人生交差点」。

干し柿カーテンから射し込む秋の陽光。時間の流れは限りなくコタツムリ的。

